

能登半島地震 使用実例

新潟市消防局 様

能登に救援部隊を派遣した新潟市消防局が宿営地で「ほぼ紙トイレ」設置・使用

新潟市消防局様はいち早く「ほぼ紙トイレ」の導入を決定され備蓄しておられました。

現地での「ほぼ紙トイレ」についてお話を伺いました。

- 令和6年能登半島地震の支援出動において1月4日に能登町で「ほぼ紙トイレ」を設置。
- 1月7日に仮設トイレが届くまでの3日間は「ほぼ紙トイレ」のみを使用。
- 普段から訓練を実施しており「ほぼ紙トイレ」の組み立ては問題無し。
- 主に女性隊員が使用し好評であった。

＊組立簡単・即使用可・大容量貯蔵という「ほぼ紙トイレ」の特長が十分に活かされ、仮設トイレが届くまで繋ぎの役目を果たせたことがわかりました。

＊新潟消防局様には今年4月に「ほぼ紙トイレ」を補充購入して頂きました。

新潟市消防局様執筆による
令和6年能登半島地における支援活動の記事が
東京法令出版株式会社発行「月刊消防7月号」に掲載

支援活動の“奏功事例”として「ほぼ紙トイレ」が
取り上げられました。



(2) トイレ
トイレについては応援出動における最重要課題の一つであるが、当界においては2段階の計画としている。初動として新潟市消防局が保有する「ほぼ紙トイレ」を3基設定し、協定先の民間業者が仮設トイレを宿営地に届けてくれるまで持ちこたえる作戦である。ちなみにほぼ紙トイレはバキュームカーで汲み取り可能なため、もし仮設トイレが届かなかつたとしてもバキュームカーが手配できれば使い続けることが可能である。この度の出動では、宿営地にほぼ紙トイレを設定し（1月4日）、新潟市の民間業者から仮設トイレ20基（1月7日に10基、12日に10基）を宿営地に届けてもらい、現地の業者に適宜汲み取りを依頼し、部隊引揚げまで運用することができた。

